

# 2016年度 決算説明会

2017年2月13日

サントリー食品インターナショナル株式会社

**SUNTORY**  
SUNTORY BEVERAGE & FOOD

# 2016年度振り返りと2017年度方針

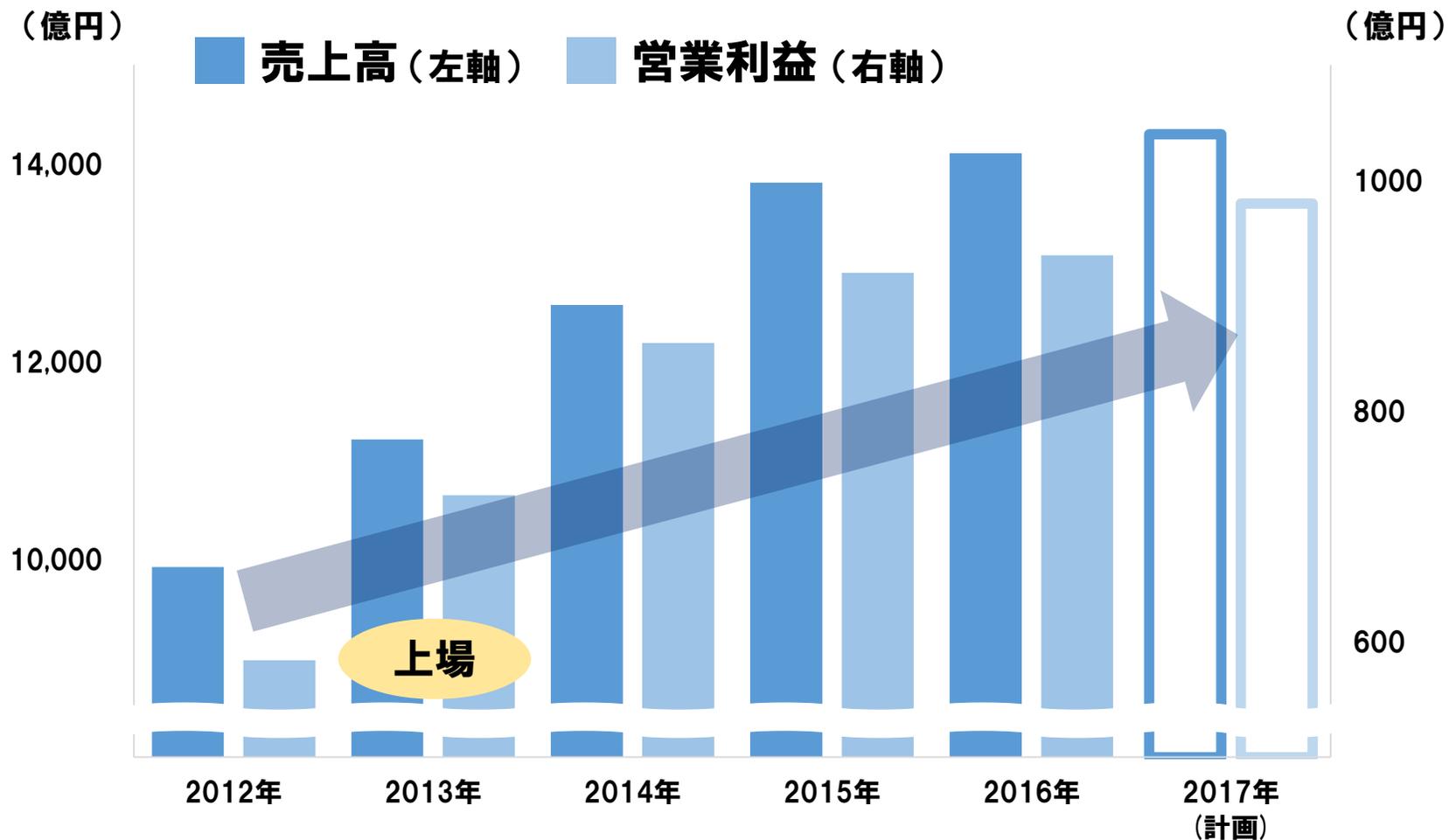
---

代表取締役社長 小郷三朗

# 2016年度振り返り

# これまでの業績推移

## 継続的な増収増益を実現



# 2016年度 業績ハイライト

## 為替の逆風を乗り越え、増収増益

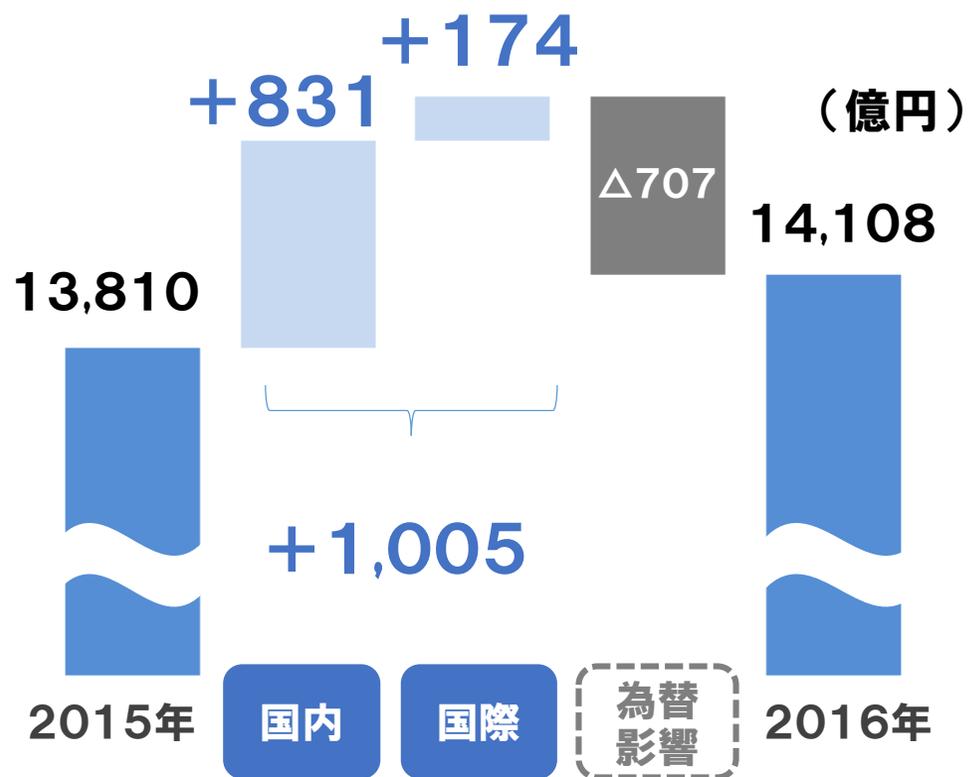
	2016年 実績	対前年増減率	為替中立
売上高	14,108億円	+2.2%	+7.7%
営業利益	935億円	+1.6%	+11.4%
純利益 <small>(*)</small>	461億円	+8.5%	+16.4%

(\*)親会社株主に帰属する当期純利益

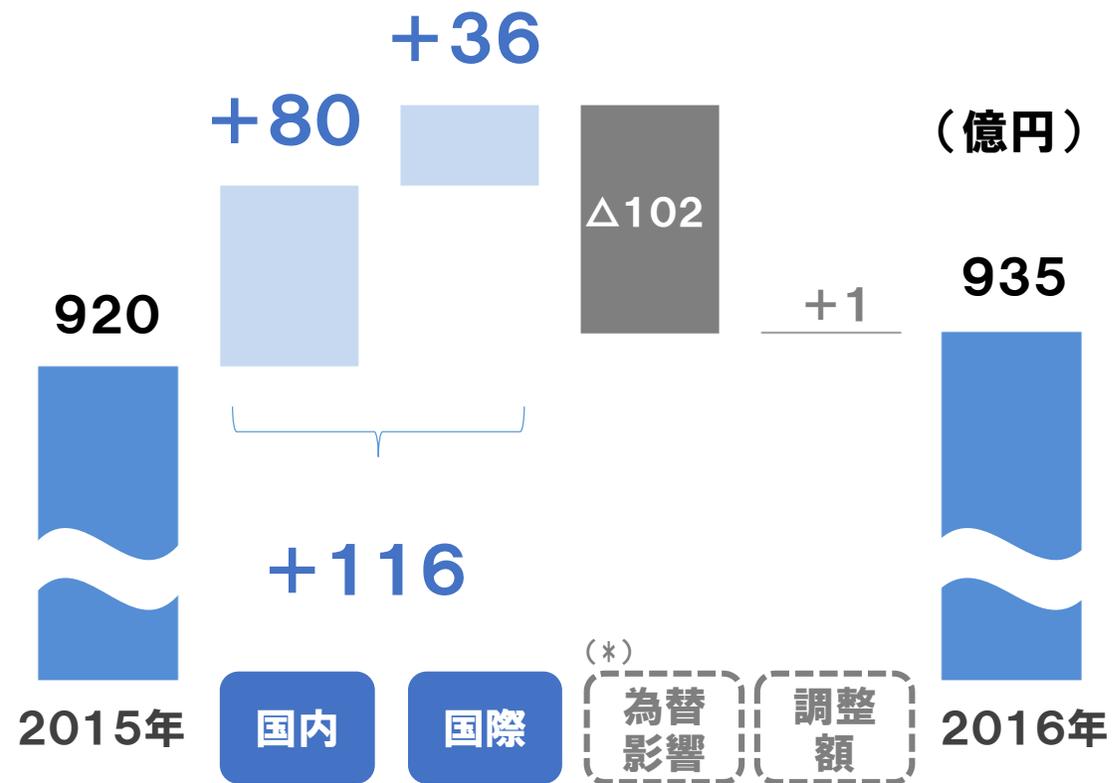
# 2016年度 業績ハイライト

## 国内・国際(為替中立)ともに増収増益

### 売上高



### 営業利益

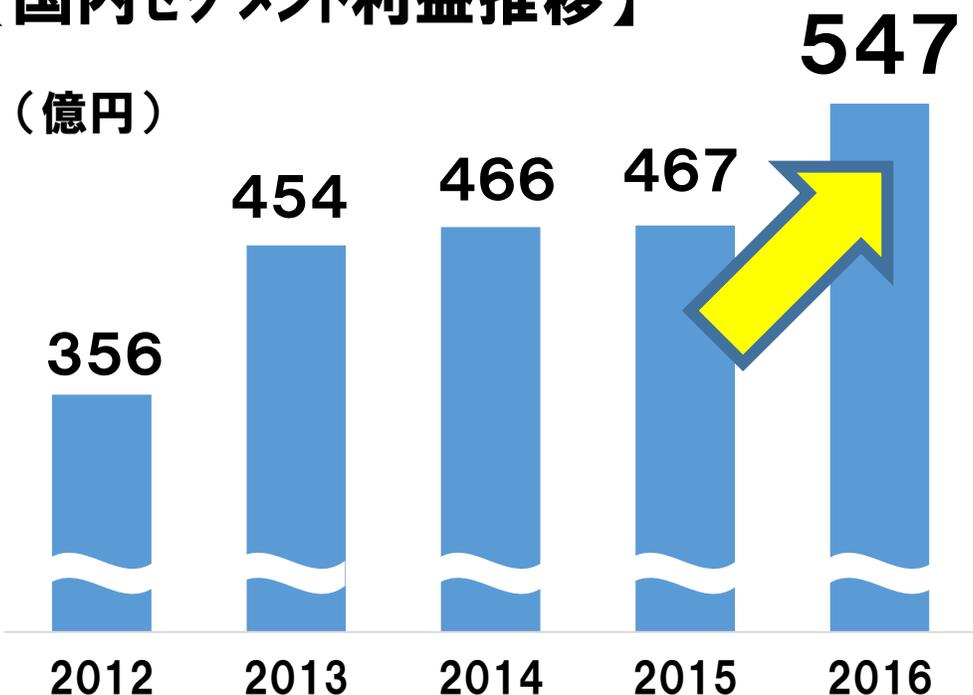


(\*) 為替影響は国際セグメントにかかる分のみ

# 2016年度 レビュー（国内セグメント）

## セグメント利益が初めて500億円を突破

【国内セグメント利益推移】



【利益創出のポイント】

- 「非価格戦略」の推進
  - 高付加価値商品、小容量商品への注力
  - 販促費の効率的な投入
- SCMコスト削減活動の深耕
- 自販機ビジネスの収益力強化

# 2016年度 レビュー（国際セグメント）

## 各エリアで事業基盤の強化を着実に進めた

### 欧州

- フランス リカバリープランを通じ営業力強化
- 英国 ブランドポートフォリオの拡充
- スペイン 業務用チャネルの強化
- アフリカ ナイジェリアの事業基盤を獲得

### アジア

- ベトナム 茶飲料強化、厳しい市場でシェア向上
- 健康食品 ブランド活性化による成長加速

### オセアニア

- 主力ブランド「V」の更なる強化

### 米州

- 非炭酸カテゴリーのポートフォリオ強化

# 2017年度 方針

## 市場を上回る売上成長、売上を上回る利益成長を図る

### 【2017年度 経営方針のポイント】

- 各エリアで事業基盤強化の取組みを継続、さらに深耕
- 高成長が期待できる新たな市場への展開(アジア・アフリカ)
- プレミアムビジネス強化(アジア健康食品)
- グローバル経営体制の更なる強化

# 2017年度 業績の見通し

上場来、5期連続の増収増益を目指す (※1)

	2017年 予想	対前年増減率	為替中立
売上高	14,300億円	+1.4%	+2.2%
営業利益	980億円	+4.8%	+6.4%
純利益 <small>(※2)</small>	470億円	+2.0%	+3.7%

(※1)2012年度決算を基点に2013年度から2017年度までの5期連続  
(※2)親会社株主に帰属する当期純利益

# 今後に向けて

A quest for the best tastes & quality  
to bring happiness & wellness into everyday life.

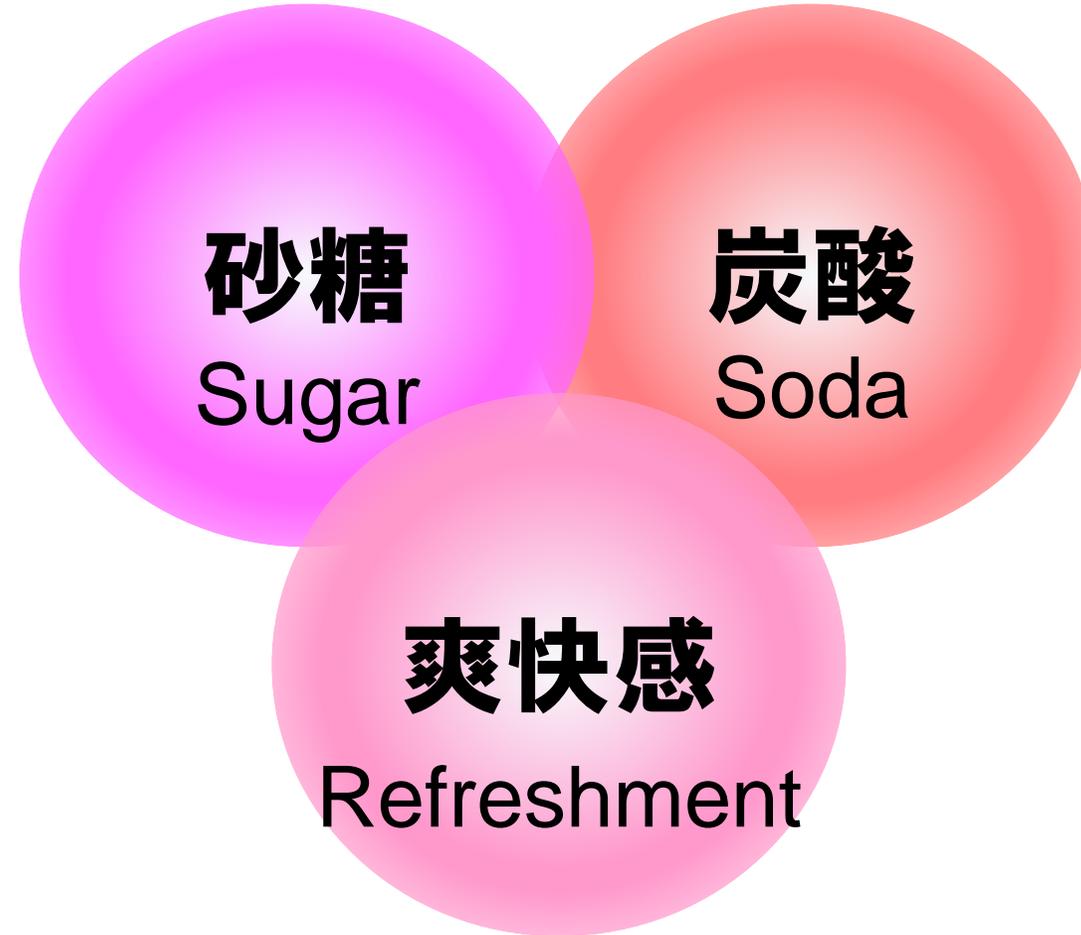
**お客様の生活に幸せと健康をもたらす  
とっておきの おいしさと品質を追い求め続けること**

To be the leading global soft drink company  
recognized for our premium and unique brands.

**上質でユニークなブランドで認められる  
飲料業界のグローバル・リーディングカンパニー**

# 「お客様が求める新たな価値」 の提供

# 清涼飲料に求められていた価値



# お客様が求める新たな価値

ナチュラル  
&  
ヘルシー

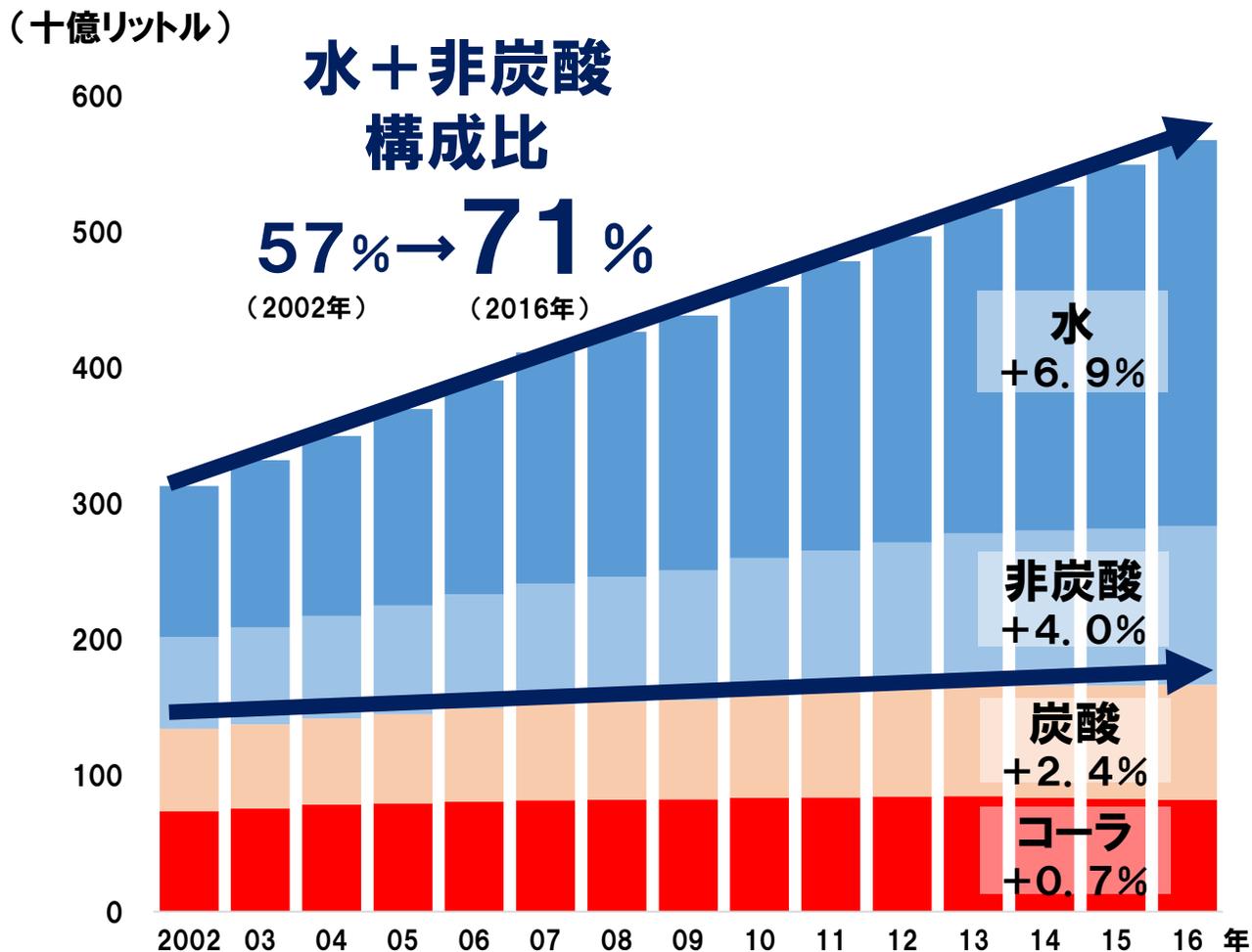
豊かな味わい  
を手軽に  
||  
お茶・コーヒーの  
RTD化

避糖化

(無糖・減糖・微糖)

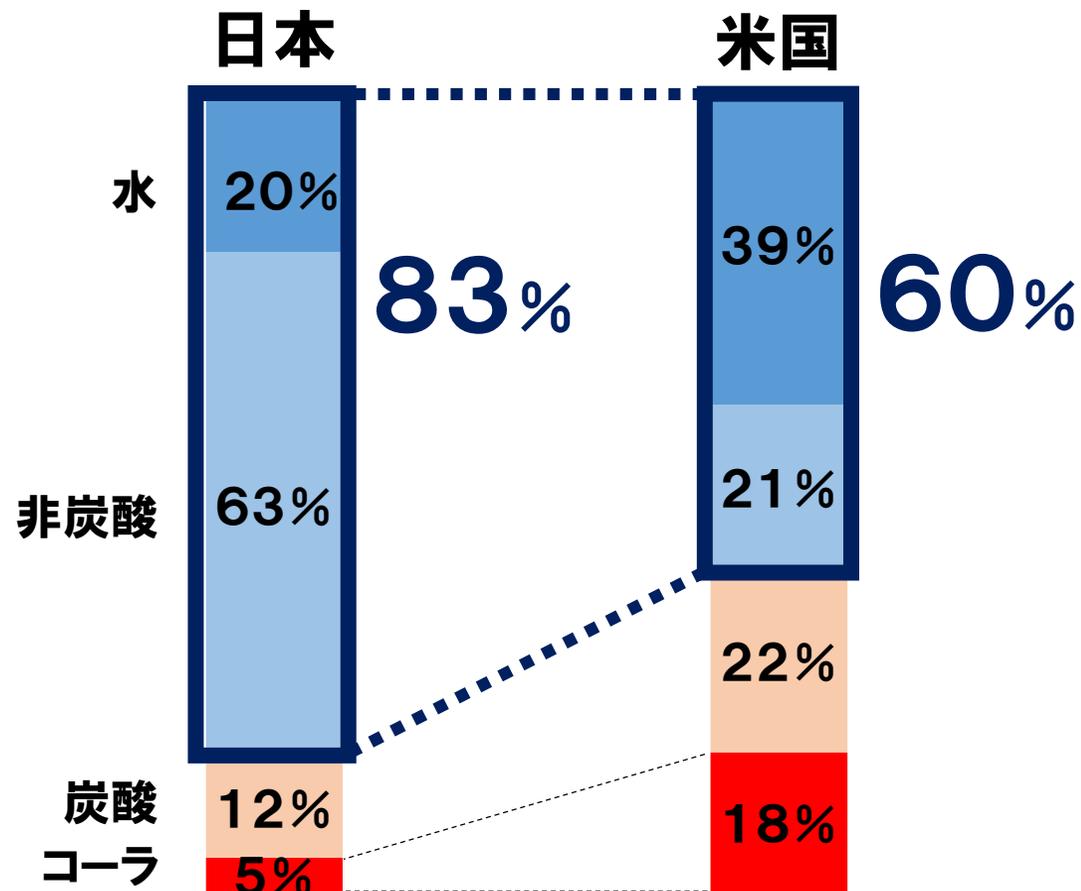
# 世界の飲料市場のトレンド

【世界の飲料市場 推移】(\*)



【日米市場 カテゴリー構成比】(\*)

(2016年)



(\*)出典:Euromonitor, Off-Trade, Volume

# お客様の新たなニーズに応える新商品

## 【2016年の新商品】



日本

英国

フランス

ベトナム

NZ

米州

# To Be the Third Force

## 世界第3極の地位を確立

# 決算補足説明

---

常務執行役員 稲田晴久

# 2016年度 実績

# 2016年度 実績

## 全ての段階利益において増益を達成

	2015年 実績	2016年 実績	対前年		
			増減(億円)	増減率	為替中立
売上高	13,810 億円	14,108 億円	+298	+2.2%	+7.7%
営業利益	920 億円	935 億円	+15	+1.6%	+11.4%
純利益 (*1)	425 億円	461 億円	+36	+8.5%	+16.4%
EBITDA (*2)	1,755 億円	1,808 億円	+53	+3.0%	+11.3%
のれん償却前 純利益 (*3)	697 億円	747 億円	+50	+7.2%	+15.4%

(\*1) 2016年実績は親会社株主に帰属する当期純利益

(\*2) EBITDA = 営業利益 + 減価償却費 + のれん償却額

(\*3) のれん償却前純利益 (15年実績) 当期純利益 + のれん償却額

(16年実績) 親会社株主に帰属する当期純利益 + のれん償却額

# 2016年度 実績(セグメント別)

## 実質的に全エリアにおいて増収増益 (\*)

### 売上高

対前年

増減(億円)

増減率

為替中立

### セグメント利益

対前年

増減(億円)

増減率

為替中立

国内 8,900 億円 +831 +10.3% -

547 億円 +80 +17.1% -

国際 5,207 億円 △534 △9.3% +3.5%

674 億円 △66 △8.9% +5.6%

欧州 2,294 △248 △9.8% +4.4%

384 △56 △12.8% +1.9%

アジア 1,643 △162 △9.0% +3.5%

143 +7 +5.3% +24.8%

オセアニア 408 △48 △10.6% +0.4%

52 △7 △12.0% △2.8%

米州 862 △75 △8.0% +2.4%

96 △10 △9.2% +1.9%

(\*)オセアニアのセグメント利益は前年に在庫評価方法の見直しを実施したことによるマイナス影響あり

## 収益性重視の取組みが奏功し、大幅増益

売上高

増減率

8,900 億円 +10.3%

セグメント利益

増減率

547 億円 +17.1%

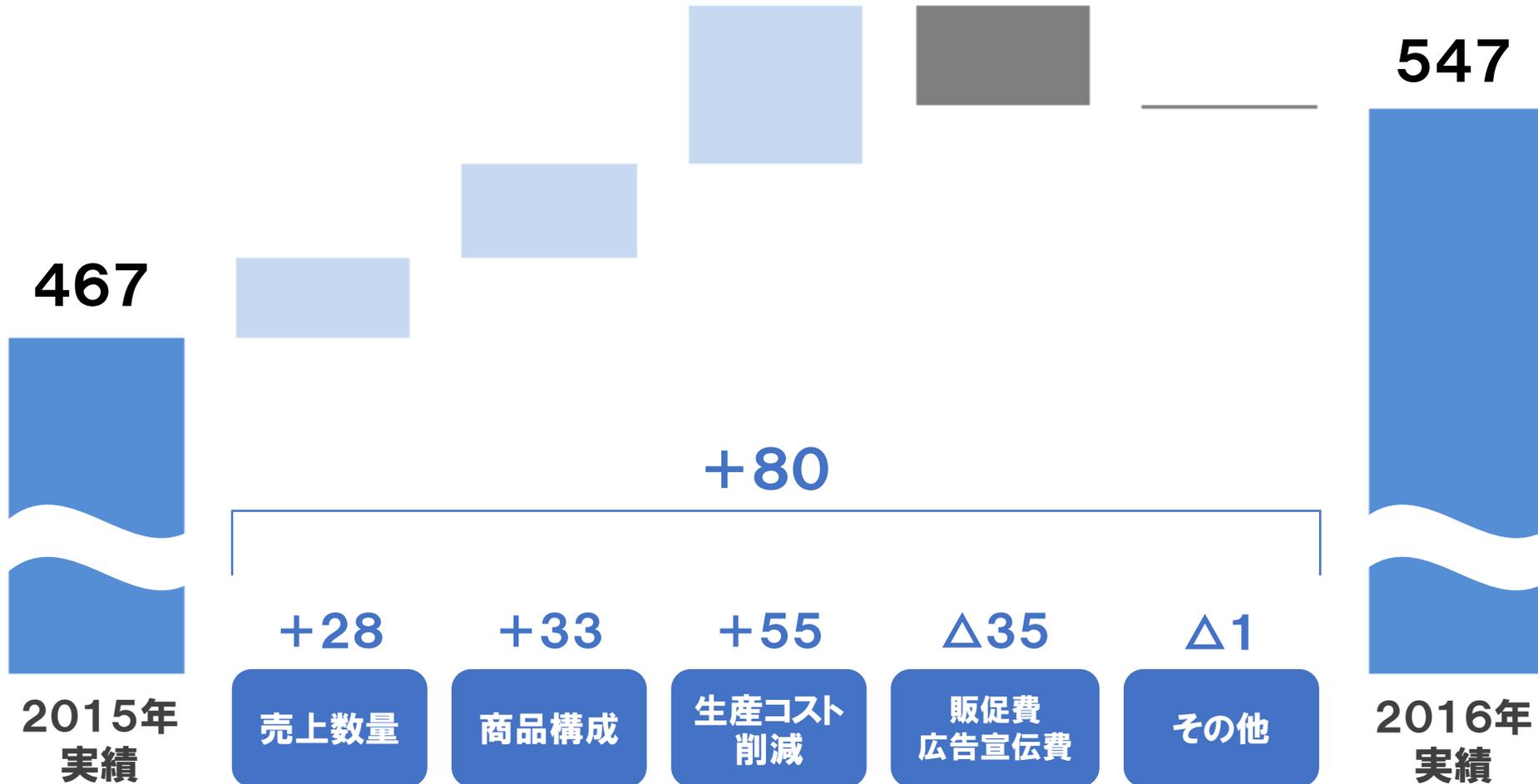
- JBグループの連結影響もあり、大幅増収
- 収益性重視の取組みの結果、大きく増益



# 国内セグメント 2016年度実績

## 利益増減要因

(億円)



## フランスの上期の不振を全体でカバーし、増収増益

売上高

為替中立

セグメント利益

為替中立

2,294 億円 +4.4%

384 億円 +1.9%

(売上高) (為替中立)

フランス (※1) 883億円 △0.3% 上期は不振も下期は販売ペースが改善

英国 (※2) 643億円 +6.5% 主力ブランドが好調に推移

スペイン (※3) 537億円 +10.8% 業務用チャンネルが引き続き好調



(※1) フランス、ベルギー、(※2) 英国、アイルランド、(※3) スペイン、ポルトガル

## 外部環境が悪化するも、増収増益を達成

売上高

為替中立

1,643 億円 +3.5%

セグメント利益

為替中立

143 億円 +24.8%

(売上高) (為替中立)

ベトナム	663億円	+3.8%	売上成長は鈍化するも収益力は向上
健康食品	494億円	+4.4%	タイでエッセンスオブチキンが好調



# オセアニア・米州 2016年度実績

## オセアニア

### 「V」が好調も特殊要因により減益

売上高

為替中立

408 億円 +0.4%

セグメント利益

為替中立

52 億円  $\Delta$ 2.8%



## 米州

### 非炭酸カテゴリーが伸長し、増収増益

売上高

為替中立

862 億円 +2.4%

セグメント利益

為替中立

96 億円 +1.9%



# 2017年度 業績予想

# 2017年度 業績予想

## 増収増益の計画

	2016年 実績	2017年 予想	対前年		
			増減(億円)	増減率	為替中立
売上高	14,108 億円	14,300 億円	+192	+1.4%	+2.2%
営業利益	935 億円	980 億円	+45	+4.8%	+6.4%
純利益 (*1)	461 億円	470 億円	+9	+2.0%	+3.7%
EBITDA (*2)	1,808 億円	1,860 億円	+52	+2.9%	+4.4%
のれん償却前 純利益 (*3)	747 億円	752 億円	+5	+0.6%	+2.4%

(\*1)親会社株主に帰属する当期純利益

(\*2) EBITDA = 営業利益 + 減価償却費 + のれん償却額

(\*3) のれん償却前純利益 = 親会社株主に帰属する当期純利益 + のれん償却額

# 2017年度 業績予想(セグメント別)

## 各エリアで着実な成長を目指す

### 売上高

対前年

増減(億円)

増減率

為替中立

	売上高	増減(億円)	増減率	為替中立
国内	8,950 億円	+50	+0.6%	-
国際	5,350 億円	+143	+2.7%	+5.0%
欧州	2,250	△44	△1.9%	+3.8%
アジア	1,810	+167	+10.1%	+10.1%
オセアニア	420	+12	+3.0%	+1.4%
米州	870	+8	+0.9%	△0.2%

### セグメント利益

対前年

増減(億円)

増減率

為替中立

	セグメント利益	増減(億円)	増減率	為替中立
国内	570 億円	+23	+4.1%	-
国際	692 億円	+18	+2.6%	+5.8%
欧州	365	△19	△4.9%	+1.1%
アジア	178	+35	+24.3%	+22.6%
オセアニア	52	+0	+1.0%	+2.0%
米州	97	+1	+1.4%	+0.1%

# 国内セグメント 2017年度業績予想

売上高

8,950 億円

増減

+0.6%

セグメント利益

570 億円

増減

+4.1%

- **ブランド&イノベーション戦略の進化**
  - 将来に向けた基幹ブランド強化と高付加価値戦略
- **中長期視点でのSCM活動**
  - 奥大山・九州熊本工場で新ライン稼動
  - コスト改善の継続
- **自販機ビジネスの強化**
  - 優良ロケへの取組み強化(法人・首都圏強化)
  - パーマシン増に向けた活動強化(商品・コラム・機材)

## 基幹ブランド強化に加え、新たな価値提案を計画

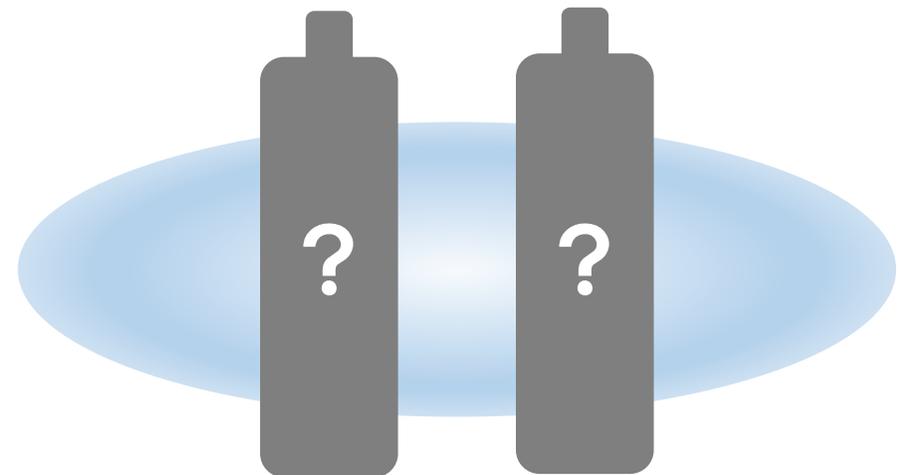
### ①伊右衛門リバイタライズ

(3月7日予定)



お客様の求める  
「上質な急須のお茶」を実現

### ②高付加価値商品の提案



カテゴリーの枠を越えた  
新たな価値を持つ商品を新発売

## 生産体制を拡充するとともにコスト削減も継続

### ①生産体制の拡充

- 天然水奥大山工場 ライン増設
- 九州熊本工場 復旧・増強

### ②コスト削減の取組み

- 新ライン稼動による製造・物流効率向上
- 包材の軽量化の継続



サントリー天然水奥大山ブナの森工場(鳥取県日野郡江府町)

## 法人営業を強化し、優良な屋内ロケーションを獲得

**当社グループ自販機事業**

⇒法人営業機能強化

⇒グループ内連携強化

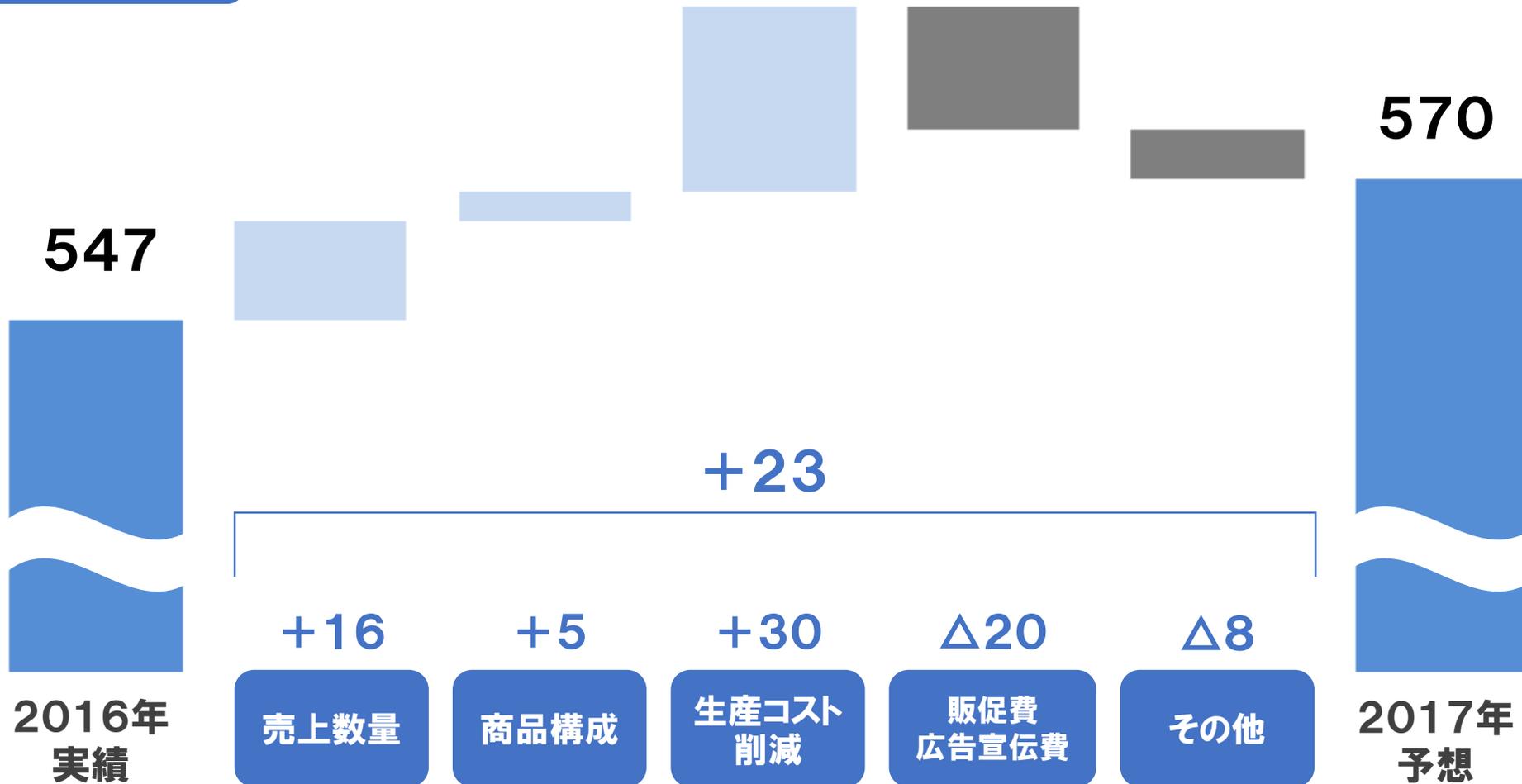


**サントリーグループ法人営業部門**

# 国内セグメント 2017年度業績予想

## 利益増減要因

(億円)



# 欧州 2017年度業績予想

売上高

2,250 億円

為替中立

+3.8%

セグメント利益

365 億円

為替中立

+1.1%

フランス

- 小売チャネルとWin-Winな関係構築
- 小容量フォーマットへの注力、ミックス改善

英国

- 砂糖含有量を削減した商品の展開
- 更なるコスト削減の実施

スペイン

- 業務用チャネルにおける取組みの進化

その他

- ナイジェリアの事業拡大



# アジア 2017年度業績予想

売上高

為替中立

セグメント利益

為替中立

1,810 億円 +10.1%

178 億円 +22.6%

ベトナム

- エナジー・お茶の品質コミュニケーション継続
- 成長する地方・郊外における営業強化



健康食品

- タイにおける営業・流通体制の強化、販路拡大
- 成長市場への展開（ミャンマー他）



# オセアニア・米州 2017年度業績予想

## オセアニア

売上高

為替中立

420 億円 +1.4%

セグメント利益

為替中立

52 億円 +2.0%

- 主力ブランド「V」の成長維持
- スポーツ飲料「Maximus」の成長加速



## 米州

売上高

為替中立

870 億円  $\Delta$ 0.2%

セグメント利益

為替中立

97 億円 +0.1%

- 非炭酸カテゴリーの成長持続
- SCMの進化（物流効率化等）



# IFRS移行による差異

## 【2017年度業績予想における差異】※金額は概算

売上高	国内販売促進費の一部 (リベート)を控除	△2,000億円
営業利益	のれん償却停止 特別損益を営業利益に計上	+260億円 △80億円
純利益 (*)	のれん償却停止	+260億円

(\*)親会社株主に帰属する当期純利益

IFRSでの開示は2017年12月期末決算から開始

# **SUNTORY**

## **SUNTORY BEVERAGE & FOOD**

# 主要為替レート

(円、期中平均)

	2015年 実績	2016年 実績	2017年 年間予想
米ドル	121.1	108.8	110
ユーロ	134.3	120.2	115
英ポンド	185.2	147.5	135
シンガポールドル	88.1	78.7	77
ベトナムドン	0.0055	0.0049	0.0048
ニュージーランドドル	84.7	75.7	77
豪ドル	91.1	80.8	82

# 2016年度 10-12月実績(セグメント別)

## 売上高

対前年

増減(億円)

増減率

為替中立

	売上高	増減(億円)	増減率	為替中立
国内	2,119 億円	△15	△0.7%	-
国際	1,330 億円	△136	△9.3%	+3.5%
欧州	490	△66	△11.9%	+6.0%
アジア	454	△52	△10.2%	+0.0%
オセアニア	123	△10	△7.3%	△0.9%
米州	263	△8	△3.1%	+7.6%

## セグメント利益

対前年

増減(億円)

増減率

為替中立

	セグメント利益	増減(億円)	増減率	為替中立
	115 億円	△12	△9.7%	-
	147 億円	△24	△14.0%	+0.8%
	71	△5	△6.0%	+17.6%
	28	△18	△39.9%	△30.8%
	22	△0	△1.2%	+3.4%
	26	△1	△2.7%	+9.0%

# 本資料取扱上の注意点

**本資料は情報提供のために作成されたものであり、日本国内外を問わず一切の投資勧誘又はそれに類する行為のために作成されたものではありません。本資料には、当社又は当社グループの今後の業績等に関連して将来に関する記述を含んでおります。将来に関する記述は、現在入手可能な情報を踏まえて、当社が現時点で合理的であると判断する一定の前提に基づくものであり、経済動向、業界での競争、市場需要、為替レート、税制や諸制度等に関わるリスクや不確実な要素を含んでいます。従って、将来、実際に公表される業績等は、これらの種々の要素によって変動するため、本書作成時点と異なる可能性もあります。当社は、本資料の情報を使用されたことにより生じるいかなる損害についても責任を負うものではありませんので、ご了承ください。**